

2023 IR Report

2023年度卒業生の成長実感と満足度（速報版）

～ 卒業生の声 から学科の 強み・課題 を考える ～

山陽学園大学・山陽学園短期大学 IR推進室

2024/1/31 合同会議

1. レポートの目的

- 毎年度、全ての在學生を対象として実施している学修行動及びキャンパスライフ調査の回答から卒業生の回答を抽出して対外的に公表している。
- この調査は2018年度から実施しているため、卒業生というコホート（同一の集団）の回答については、卒業時の静的な情報だけでなく、1年次からの動きを動的に把握することが可能となっている。
- このレポートでは、2023年度卒業生の成長実感（16項目）と帰属意識、愛着度を含む満足度（5項目）の2つの分野の回答について、1年次からの動きも含めて学科ごとのデータを集計・分析することで、各学科の強みと課題を考える材料を提供するものである。

2. 留意事項

- 学修行動及びキャンパスライフ調査の概要は次のとおりである。
 - 調査対象：全ての在學生
 - 調査方法：Web回答（Google Form利用）とアンケート用紙を併用して11月～1月に実施
 - 回答率：別表1のとおり
- 集計・分析は、大学と短大それぞれの学科の卒業時の回答を比較した上で、各学科で1年次からの動きを示している。
- 短期大学については、FD・SD研修のアンケート等で「2年コースと3年コースでは学生の意識等がかなり異なっていると感じている」との意見があったことを踏まえ、2022年度卒業生分と同様に、コースごとで集計・分析を行っている。
- 集計結果には、別表1に記載のとおり標本誤差があり得ることに注意する必要がある。

別表1 回収率・標本誤差一覧表

学 科	区分A	2020	2021	2022	2023	区分B	2020	2021	2022	2023
言語文化	学生数	42	41	40	38	回収率	97.6	95.1	85.0	100.0
	回答数	41	39	34	38	標本誤差	±2.4	±3.5	±6.6	±0.0
ビジネス心理	学生数	31	31	32	33	回収率	90.3	71.0	93.8	93.9
	回答数	28	22	30	31	標本誤差	±5.9	±11.4	±4.5	±4.4
地域マネジメント	学生数	43	41	38	39	回収率	81.4	39.0	44.7	84.6
	回答数	35	16	17	33	標本誤差	±7.2	±19.4	±17.9	±6.8
看 護	学生数	79	77	74	81	回収率	94.9	97.4	93.2	100.0
	回答数	75	75	69	81	標本誤差	±2.6	±1.8	±3.1	±0.0
健康栄養（2）	学生数	—	—	17	17	回収率	—	—	94.1	100.0
	回答数	—	—	16	17	標本誤差	—	—	±6.1	±0.0
健康栄養（3）	学生数	—	44	44	44	回収率	—	97.7	93.2	100.0
	回答数	—	43	41	44	標本誤差	—	±2.3	±4.0	±0.0
こども育成（2）	学生数	—	—	14	13	回収率	—	—	71.4	100.0
	回答数	—	—	10	13	標本誤差	—	—	±17.2	±0.0
こども育成（3）	学生数	—	52	52	52	回収率	—	100.0	63.5	96.2
	回答数	—	52	33	50	標本誤差	—	±0.0	±12.2	±1.5

※1 表頭の4桁の数字は年度。学生数、回答数の単位は人、回収率、標本誤差の単位は%。

※2 短期大学の学科の後の（2）は2年コース、（3）は3年コースを表している。

※3 標本誤差は、計算式で求めた95%の確率での最大誤差の数値。うち赤字の数字は誤差が10%を超えているも

別表2 集計項目一覧表

成長実感の項目
1. 授業の重要なポイントをノートにまとめる力
2. 図書館等で文献を調べる力
3. 文献や資料を読んで要点を理解する力
4. 自分の意見と事実を分けて書く力
5. ものごとを客観的・多面的にとらえる力
6. ものごとに対して粘り強く取り組む力
7. ものごとの問題点を発見する力
8. 発見した課題を解決する力
9. 自分の意見を筋道を立てて主張する力
10. 英語の能力
11. 多文化、異文化の人々に関する知識
12. 地域社会が直面する問題に対する理解
13. 国家間、国際的な問題に対する理解
14. リーダーシップ
15. 人間関係を構築する力
16. 大学の建学の精神や教育理念、歴史や伝統

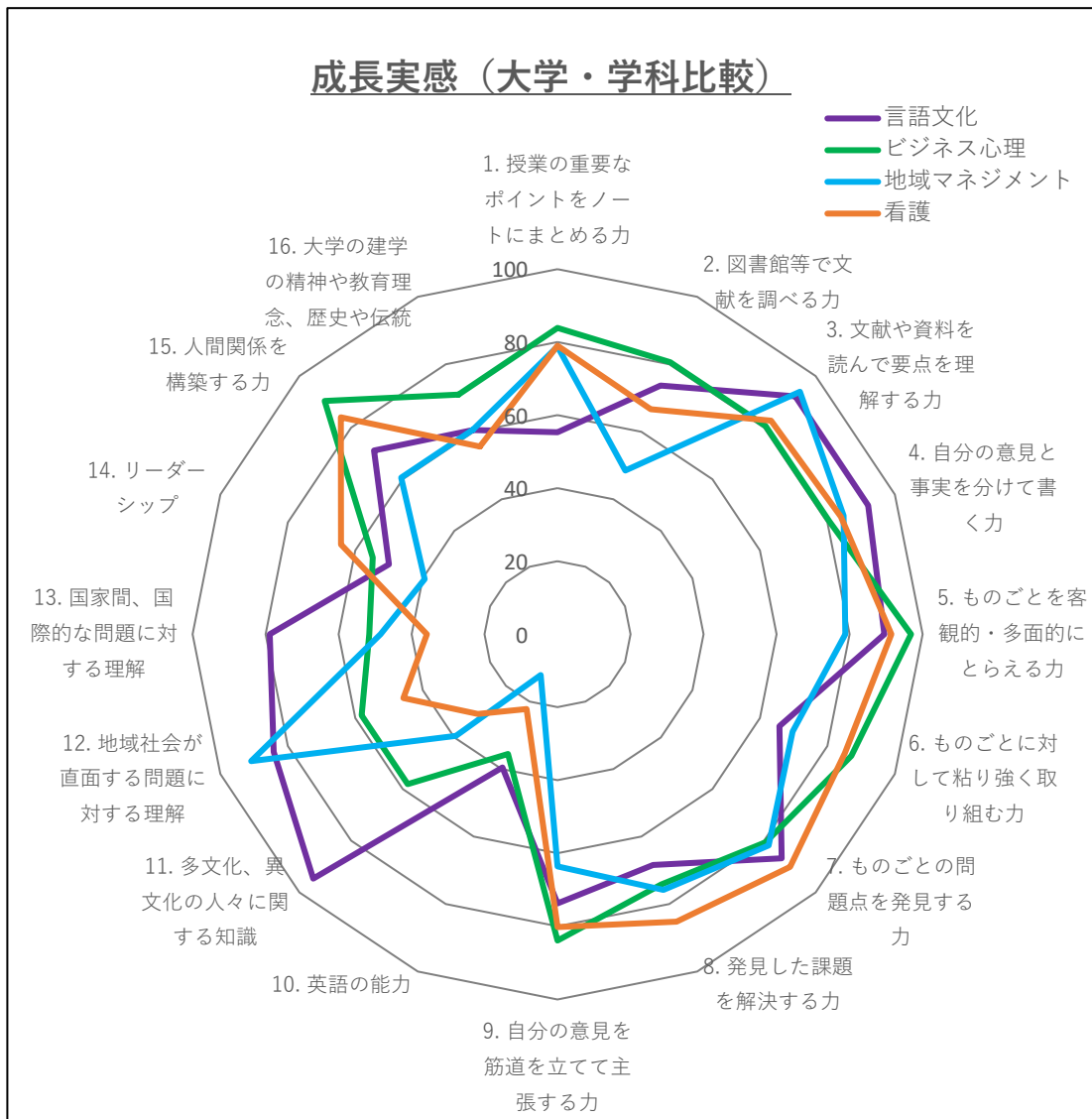
満足度の項目
1. 教員との交流の実感
2. 本学への帰属意識
3. 大学生活への満足度
4. 教育全般への満足度
5. 本学への愛着度



3. 成長実感 (1-1) 大学・学科比較

項目	言語文化	ビジネス心理	地域M	看護
1	55.3	83.9	78.8	79.0
2	73.7	80.6	48.5	66.7
3	92.1	80.6	93.9	82.7
4	92.1	80.6	84.8	84.0
5	89.5	96.8	78.8	91.4
6	65.8	87.1	69.7	85.2
7	86.8	80.6	81.8	90.1
8	68.4	74.2	75.8	85.2
9	73.7	83.9	63.6	80.2
10	39.5	35.5	12.1	22.2
11	94.7	58.1	39.4	30.9
12	84.2	58.1	90.9	45.7
13	78.9	51.6	48.5	35.8
14	50.0	54.8	39.4	64.2
15	71.1	90.3	60.6	84.0
16	60.5	71.0	60.6	55.6

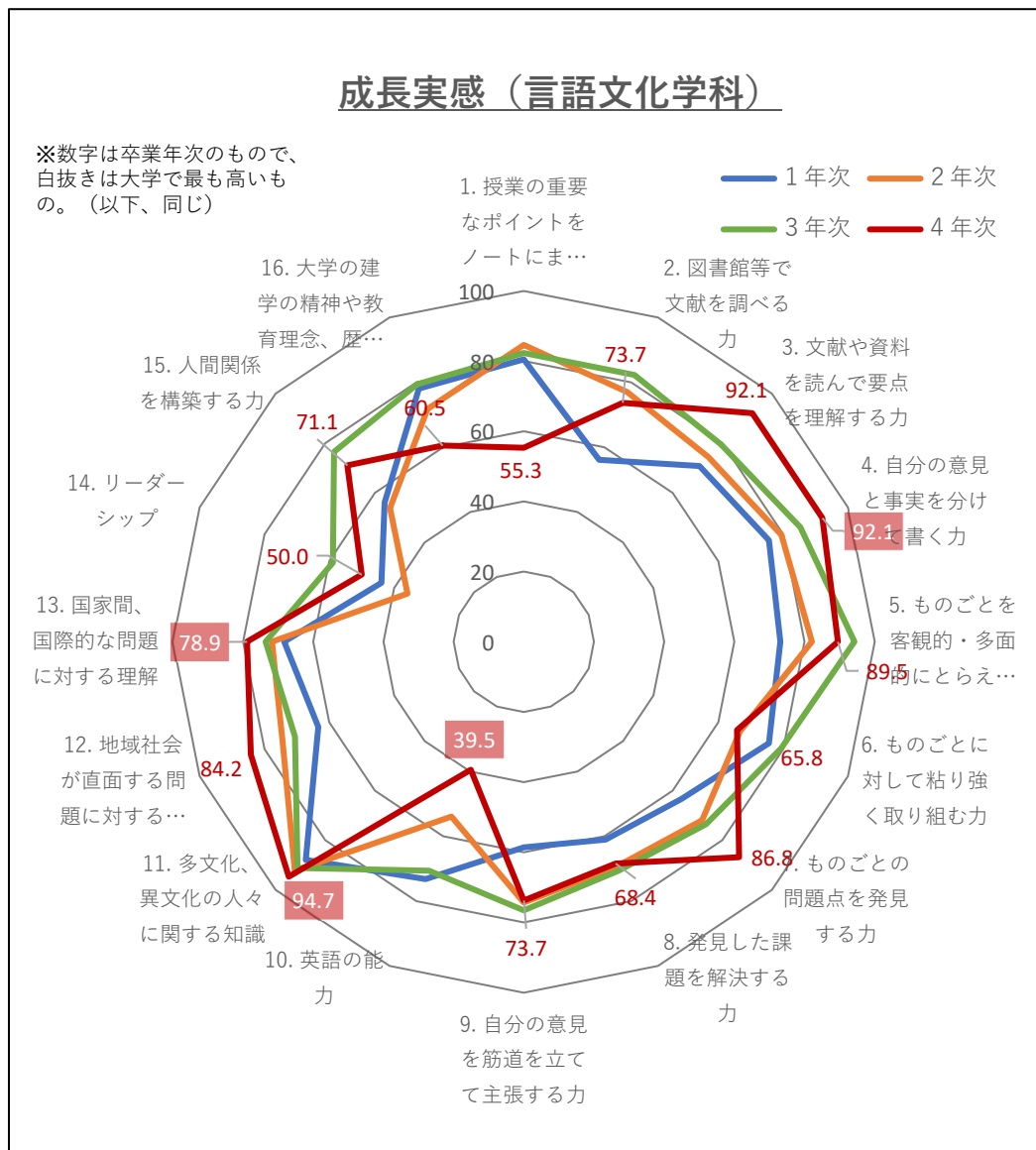
※背景色が青のものは大学で最も高いもの。



3. 成長実感 (1-2) 大学・言語文化学科

- 学修の基礎的なスキルのうちの3、4や7. ものごとの問題点を発見する力は、年次で着実に向上している。
- 11.多文化・異文化の人々に関する知識は、1年次から約9割が成長を実感している。
- 13. 国家間、国際的な問題に対する理解は、年次で増加し、4年次には78.9%でとなっており、大学で最も高い。
- 10.英語の能力は、2年次以降低下し、4年次では39.5%に止まっている。

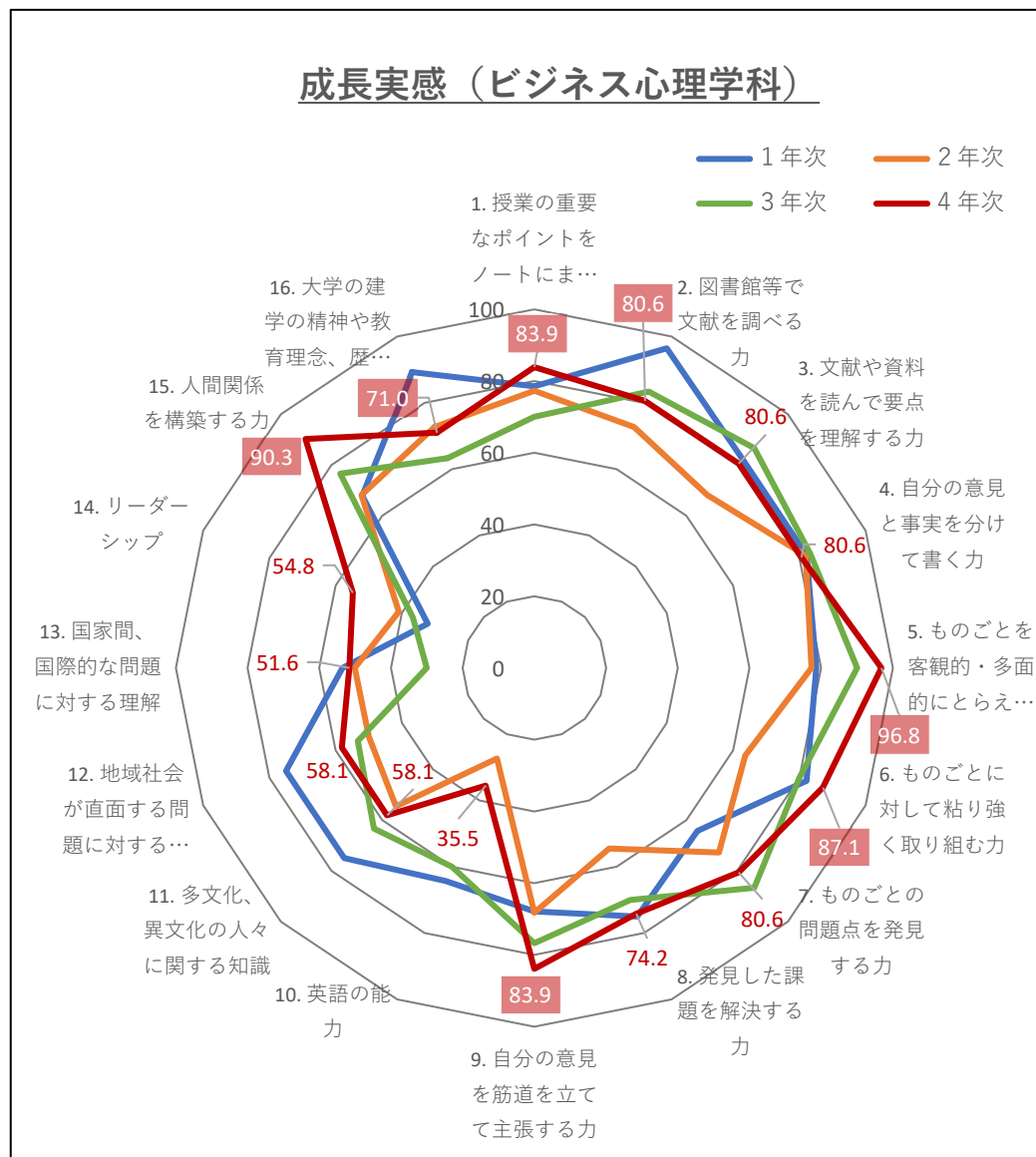
項目	2020	2021	2022	2023
	1年次	2年次	3年次	4年次
1	80.5	84.6	82.3	55.3
2	56.1	77.0	82.3	73.7
3	70.8	74.4	79.5	92.1
4	75.6	79.5	85.3	92.1
5	73.1	82.1	94.2	89.5
6	75.6	66.7	79.4	65.8
7	63.4	71.9	73.5	86.8
8	61.0	69.3	70.6	68.4
9	58.6	74.3	76.5	73.7
10	73.2	53.9	70.6	39.5
11	87.9	92.3	91.2	94.7
12	63.4	74.4	70.6	84.2
13	68.3	71.8	73.6	78.9
14	43.9	35.9	58.9	50.0
15	56.1	53.9	76.5	71.1
16	78.1	71.8	79.4	60.5



3. 成長実感 (1-3) 大学・ビジネス心理学科

- 1、2、5、6、9、15、16の7項目での成長実感が、大学で最も高くなっている。
- 問題発見・解決等の力 (5~9) のうち、8以外は3年次または4年次が最も高くなっており、全体的には概ね年次で高まっている傾向にある。
- 全体的に、2年次での成長実感の率が低い傾向にあるが、これは標本誤差が影響している可能性がある。

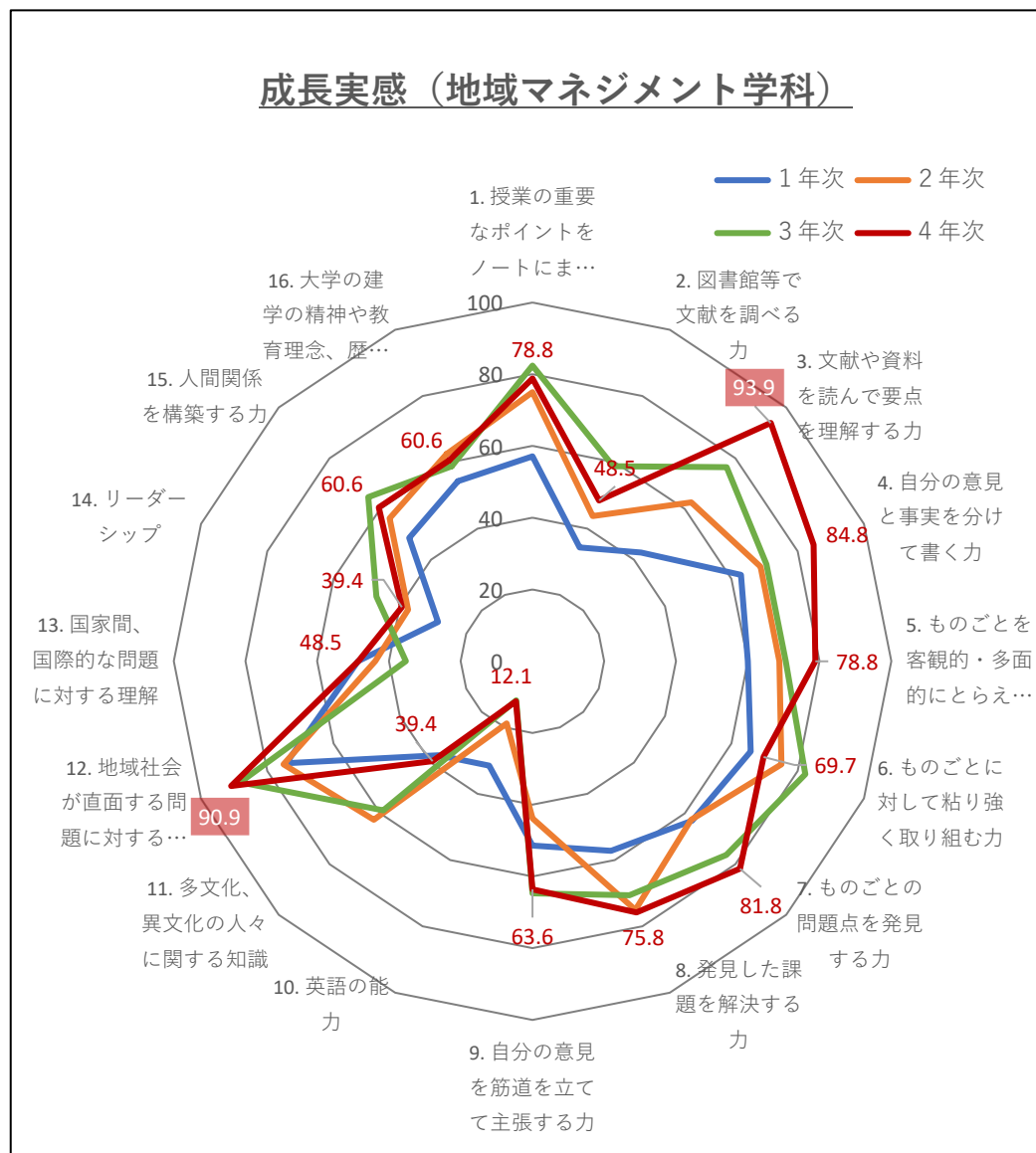
項目	2020	2021	2022	2023
	1年次	2年次	3年次	4年次
1	78.5	77.3	70.0	83.9
2	96.5	72.7	83.4	80.6
3	82.2	68.2	86.7	80.6
4	82.2	81.9	83.3	80.6
5	78.6	77.3	90.0	96.8
6	82.2	63.7	80.0	87.1
7	64.3	72.8	86.7	80.6
8	75.0	54.5	70.0	74.2
9	67.9	68.2	76.7	83.9
10	64.3	27.3	60.0	35.5
11	75.0	54.6	63.3	58.1
12	75.0	50.0	53.3	58.1
13	53.5	50.1	30.0	51.6
14	32.2	40.9	36.7	54.8
15	67.9	68.2	76.6	90.3
16	89.3	72.7	63.3	71.0



3. 成長実感 (1-4) 大学・地域マネジメント学科

- 基礎的なスキルや問題発見・解決等の力 (1~9) は3年次または4年次が最大となっており、基本的に、年次を重ねる中で着実に成長を実感できていることが見て取れる。
- 4年次の、7. ものごとの問題点を発見する力は81.8%、8. 発見した課題を解決する力が75.8%、12. 地域社会が直面する問題に対する理解が90.9%で学科の特性が顕著である。
- 4年次に、14. リーダーシップが39.4%、15. 人間関係を構築する力が60.6%で、いずれも大学で最も低くなっている。

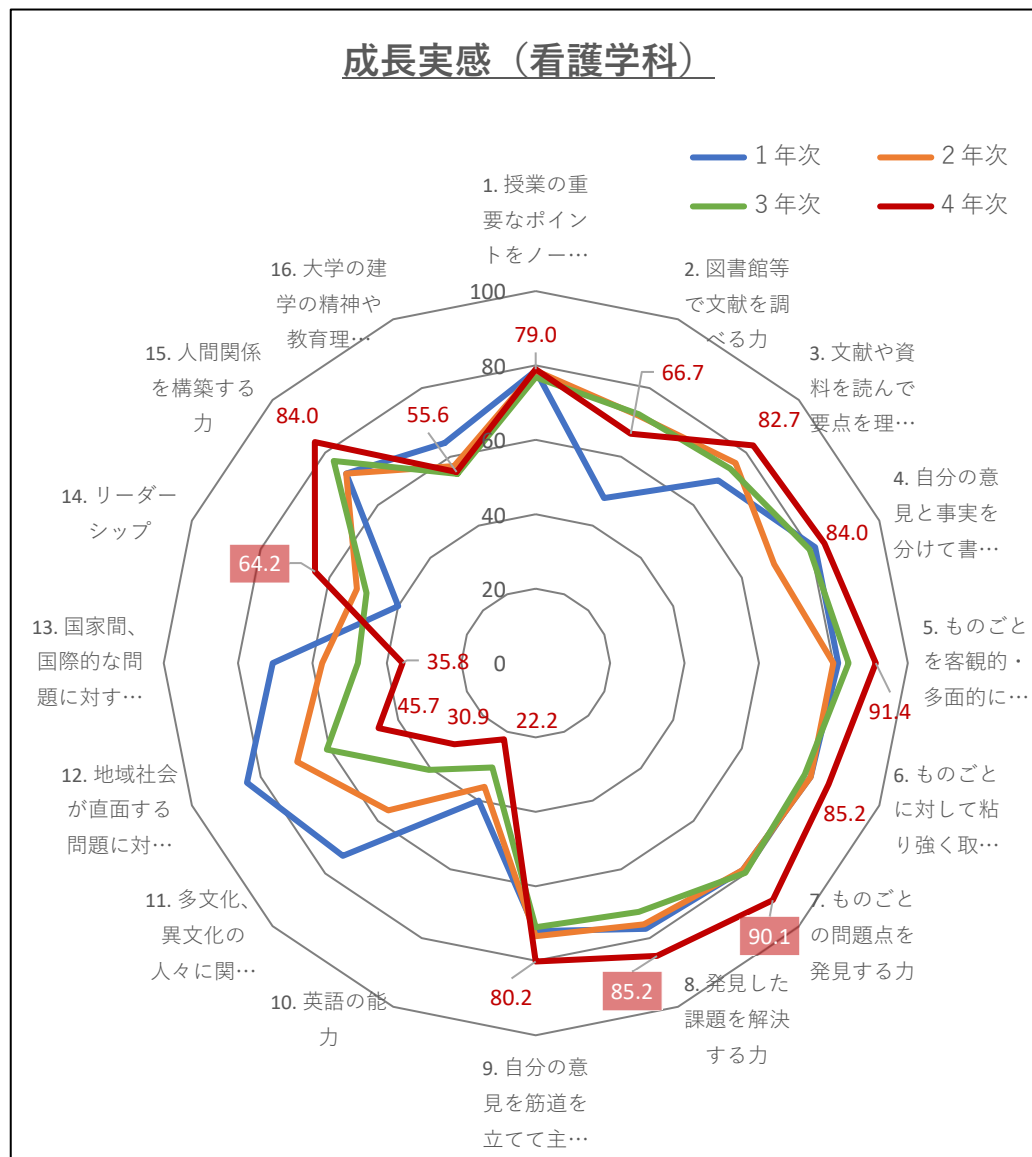
項目	2020	2021	2022	2023
	1年次	2年次	3年次	4年次
1	57.1	75.0	82.4	78.8
2	34.3	43.8	58.8	48.5
3	42.8	62.6	76.5	93.9
4	62.9	68.8	70.6	84.8
5	60.0	68.8	70.6	78.8
6	65.8	75.1	82.3	69.7
7	62.9	62.5	76.4	81.8
8	57.2	75.0	70.6	75.8
9	51.4	43.8	64.7	63.6
10	31.5	18.8	11.8	12.1
11	37.1	62.5	58.8	39.4
12	74.3	75.1	88.2	90.9
13	48.6	43.8	35.3	48.5
14	28.5	37.5	47.1	39.4
15	48.6	56.3	64.7	60.6
16	54.3	62.5	58.8	60.6



3. 成長実感 (1-5) 大学・看護学科

- 基礎的なスキルや問題発見・解決等の力 (1~9)のうち2以外と、14.リーダーシップ、15.人間関係を構築する力の成長実感は、全て4年次で最大となっており、これらの多くが80%を超えている。
- 7、8、14は、それぞれ90.1%、85.2%、64.2%で大学で最も高くなっている。
- 10~13の英語力、異文化・多文化、地域社会や国際的な問題については、いずれも年次ごとに低下している。

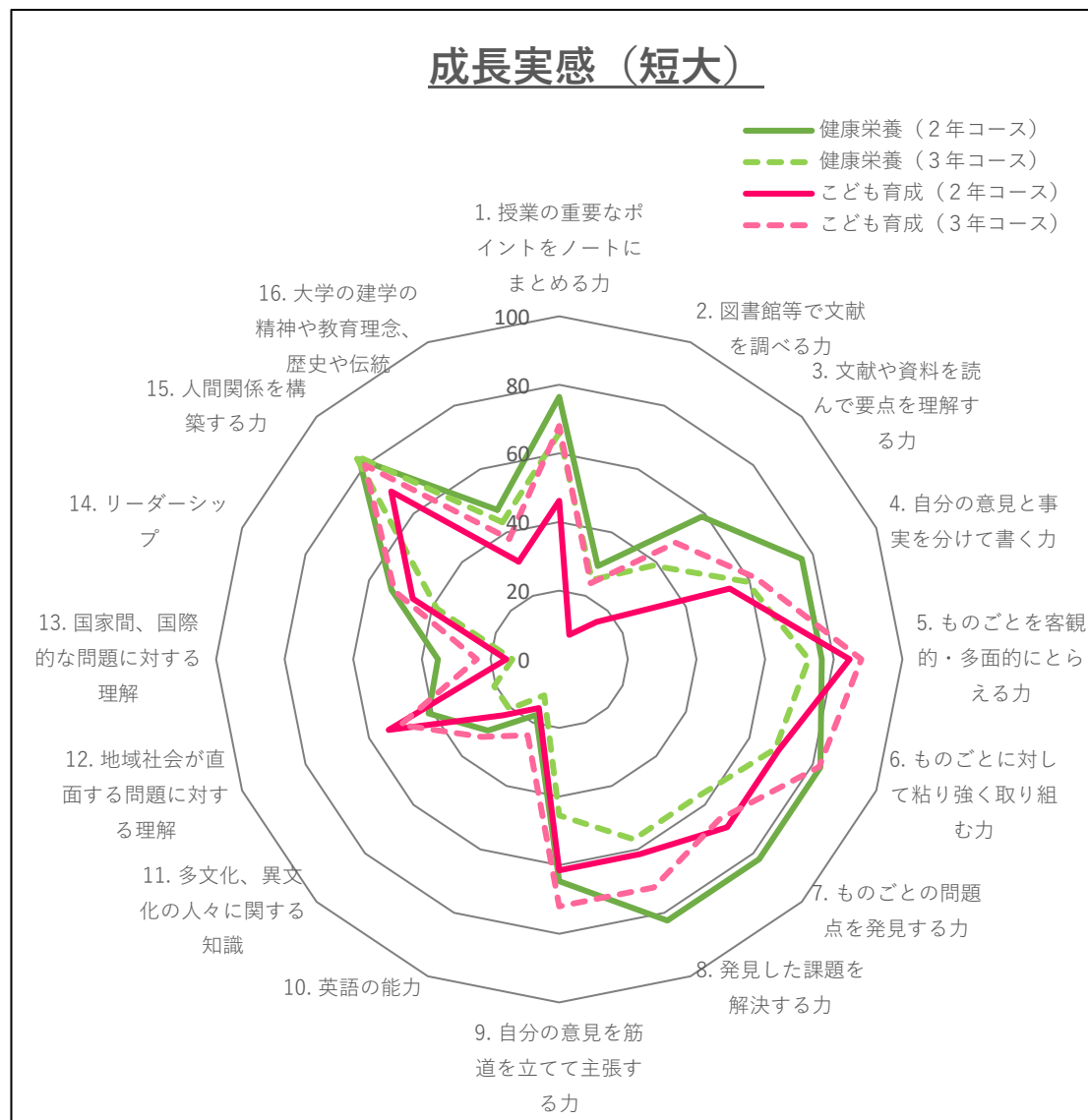
項目	2020	2021	2022	2023
	1年次	2年次	3年次	4年次
1	78.6	78.6	76.8	79.0
2	48.0	72.0	72.4	66.7
3	69.4	76.0	73.9	82.7
4	81.3	69.4	79.7	84.0
5	81.3	80.0	84.1	91.4
6	80.0	80.0	78.3	85.2
7	78.7	78.7	79.7	90.1
8	77.3	76.0	72.4	85.2
9	72.0	73.4	71.0	80.2
10	40.0	36.0	30.4	22.2
11	73.3	56.0	40.6	30.9
12	84.0	69.4	60.8	45.7
13	70.7	57.4	47.8	35.8
14	40.0	52.0	49.2	64.2
15	72.0	72.0	76.8	84.0
16	64.0	57.3	55.0	55.6



3. 成長実感 (2-1) 短大・学科比較

項目	健康栄養	健康栄養	こども育成	こども育成
	2年コース	3年コース	2年コース	3年コース
1	76.5	65.9	46.2	68.0
2	29.4	25.0	7.7	24.0
3	58.8	38.6	15.4	48.0
4	76.5	59.1	53.8	62.0
5	76.5	72.7	84.6	88.0
6	82.4	68.2	69.2	82.0
7	82.4	56.8	69.2	66.0
8	82.4	56.8	61.5	72.0
9	64.7	45.5	61.5	72.0
10	17.6	11.4	15.4	24.0
11	29.4	20.5	23.1	32.0
12	41.2	20.5	53.8	50.0
13	35.3	13.6	15.4	24.0
14	52.9	38.6	46.2	52.0
15	82.4	84.1	69.2	80.0
16	47.1	43.2	30.8	38.0

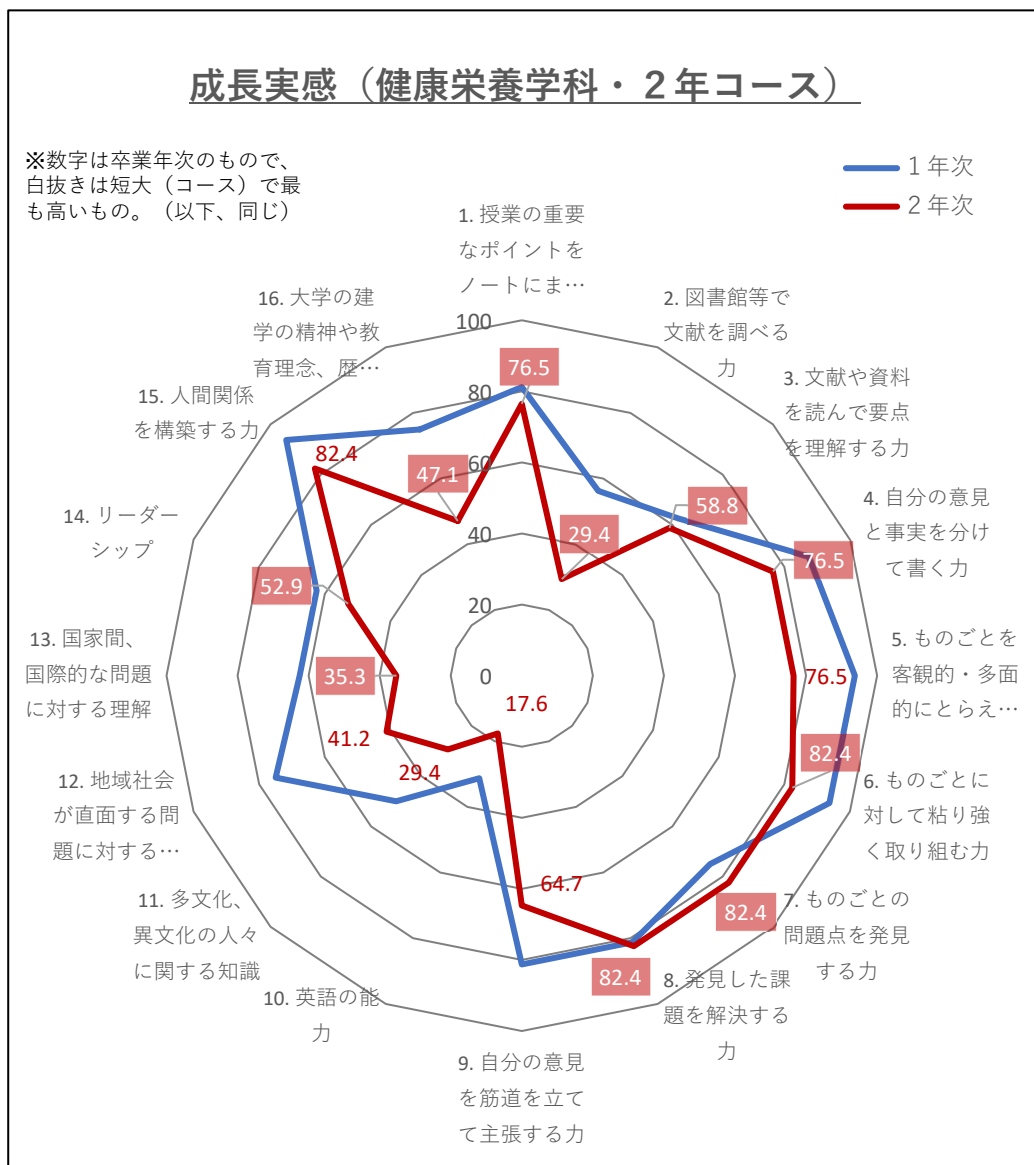
※背景色が青のものは短大で最も高いもの。



3. 成長実感 (2-2) 短大・健康栄養学科 (2年コース)

- 16項目のうち、1~4、6~8、13、14、16の10項目が短大 (2学科それぞれの2年及び3年コース=計4コース) で最も高い。
- 基礎的なスキルや問題発見・解決等の力 (1~9) が全般的に高いことから、2年間で一定の成長実感が得られていると評価できる。
- 7. ものごとの問題点を発見する力、8. 発見した課題を解決する力以外は、全て1年次の方が高くなっている。

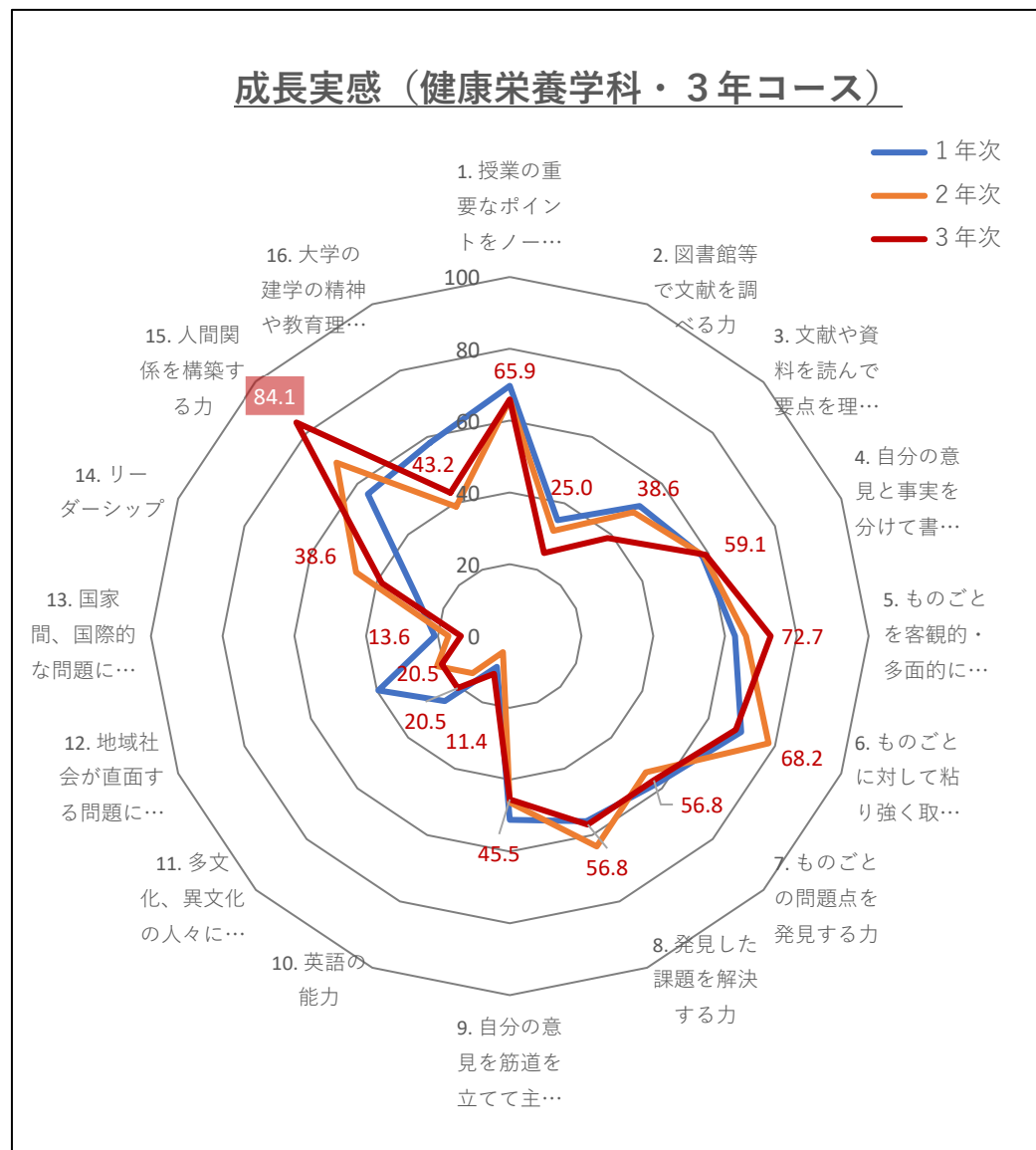
項目	2022	2023
	1年次	2年次
1	81.3	76.5
2	56.3	29.4
3	62.5	58.8
4	87.5	76.5
5	93.8	76.5
6	93.8	82.4
7	75.0	82.4
8	81.3	82.4
9	81.3	64.7
10	31.3	17.6
11	50.0	29.4
12	75.0	41.2
13	62.5	35.3
14	62.5	52.9
15	93.8	82.4
16	75.0	47.1



3. 成長実感 (2-3) 短大・健康栄養学科 (3年コース)

- ▶ 全体として、年次ごとでの成長実感の変化が少ない。
- ▶ その中で、5. ものごとを客観的・多面的にとらえる力や15. 人間関係を構築する力は、年次で増加しており、特に15.は84.1%となっており、短大で最も高い。
- ▶ 5~14は全て短大で最も低く、特に12. 地域社会が直面する問題に対する理解は、1年次に比べて3年次では約半分に低下している。

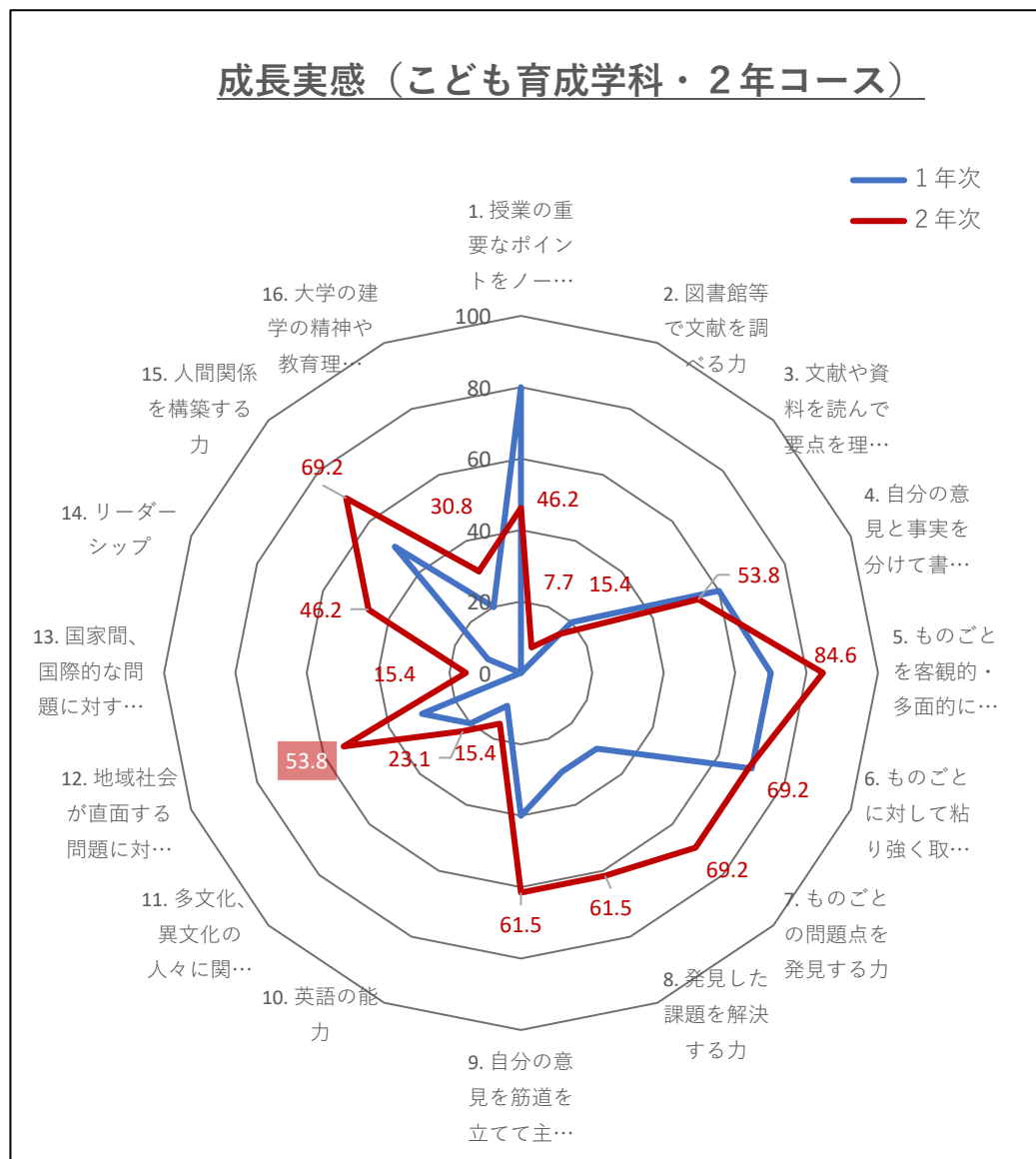
項目	2021	2022	2023
	1年次	2年次	3年次
1	69.7	65.9	65.9
2	34.9	31.7	25.0
3	51.2	48.8	38.6
4	58.1	58.5	59.1
5	62.8	65.9	72.7
6	69.8	78.0	68.2
7	58.1	53.7	56.8
8	55.8	63.4	56.8
9	51.2	46.3	45.5
10	9.3	4.9	11.4
11	25.6	14.6	20.5
12	39.6	22.0	20.5
13	20.9	17.1	13.6
14	27.9	46.3	38.6
15	55.9	68.3	84.1
16	58.2	39.0	43.2



3. 成長実感 (2-4) 短大・こども育成学科 (2年コース)

- 問題発見・解決等の力 (5~9) は2年次で全て60%以上となっており、特に5. ものごとを客観的・多面的にとらえる力は84.6%と高い。
- 12. 地域社会が直面する問題に対する理解は、53.8%となっており、短大で一番高い。
- 基礎的なスキル (1~4) は全て短大で一番低くなっている。
- 1年次は母集団14で回答数が10 (2年次は、ともに13) となっており、母集団の絶対数と標本誤差の影響も考慮する必要がある。

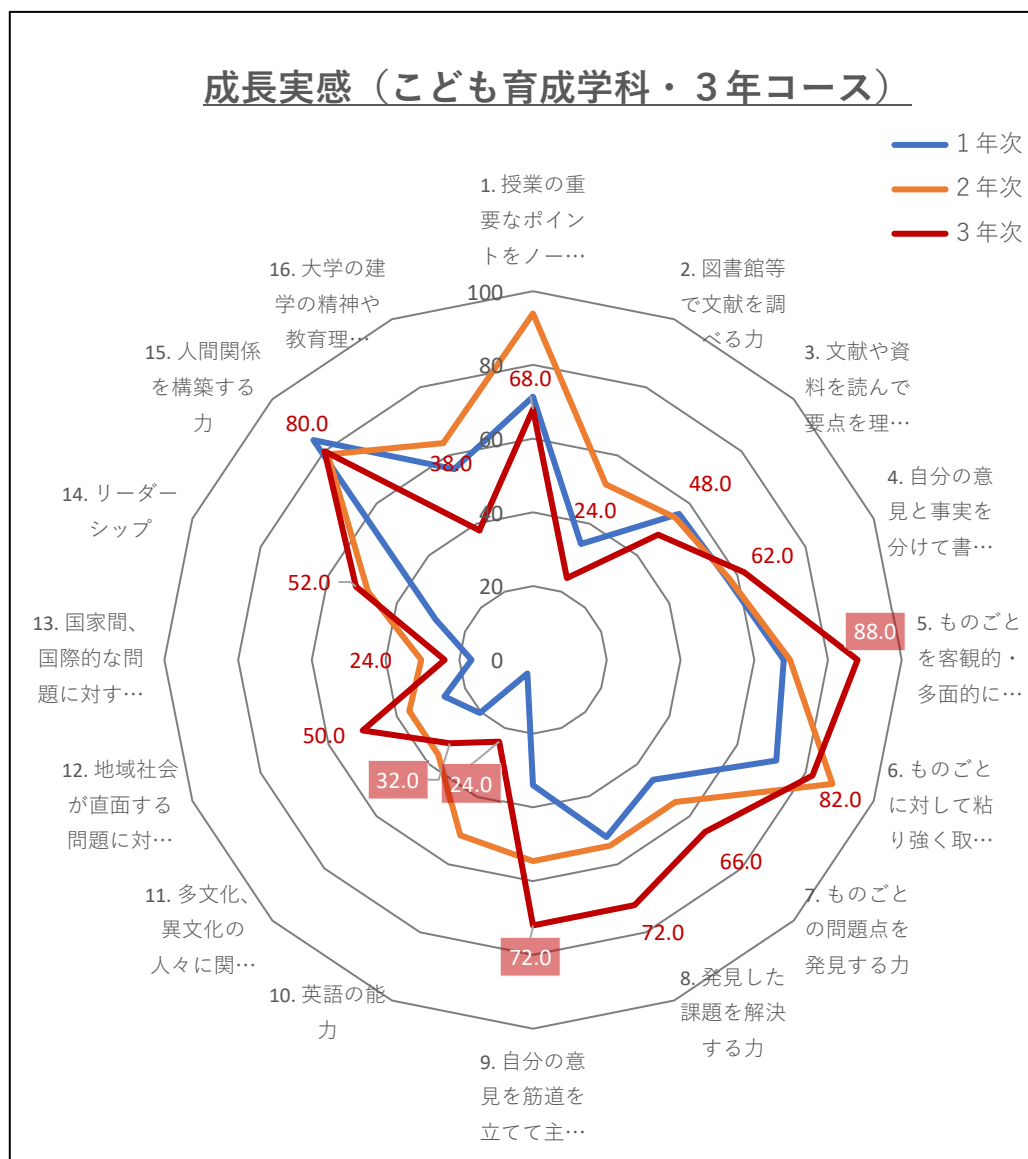
項目	2022	2023
	1年次	2年次
1	80.0	46.2
2	0.0	7.7
3	20.0	15.4
4	60.0	53.8
5	70.0	84.6
6	70.0	69.2
7	30.0	69.2
8	30.0	61.5
9	40.0	61.5
10	10.0	15.4
11	20.0	23.1
12	30.0	53.8
13	0.0	15.4
14	10.0	46.2
15	50.0	69.2
16	20.0	30.8



3. 成長実感 (2-5) 短大・こども育成学科 (3年コース)

- 16項目中の14項目で2年次または3年次が1年次より高くなっており、全体として成長を実感できているのではないかと考えられる。
- 問題発見・解決等の力(5~9)は概ね高くなっており、そのうち5と9は短大で一番高い。
- また、10.英語の能力と11.多文化、異文化の人々に関する知識も短大で一番高い。
- 1.授業の重要なポイントをノートにまとめる力など、いくつかの項目では、2年次から3年次で数値が低下している。

項目	2021	2022	2023
	1年次	2年次	3年次
1	71.4	93.9	68.0
2	34.0	51.5	24.0
3	56.0	54.5	48.0
4	57.1	57.6	62.0
5	68.0	69.7	88.0
6	71.4	87.9	82.0
7	46.0	54.5	66.0
8	52.0	54.5	72.0
9	34.0	54.5	72.0
10	4.0	51.5	24.0
11	20.4	36.4	32.0
12	26.0	36.4	50.0
13	16.7	30.3	24.0
14	28.6	48.5	52.0
15	84.3	78.8	80.0
16	56.0	63.6	38.0



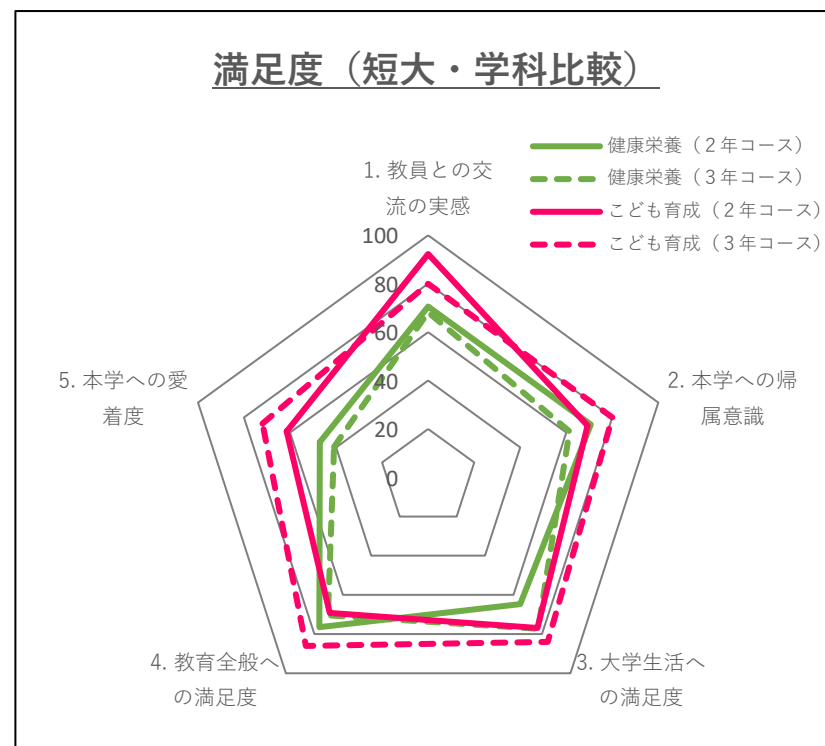
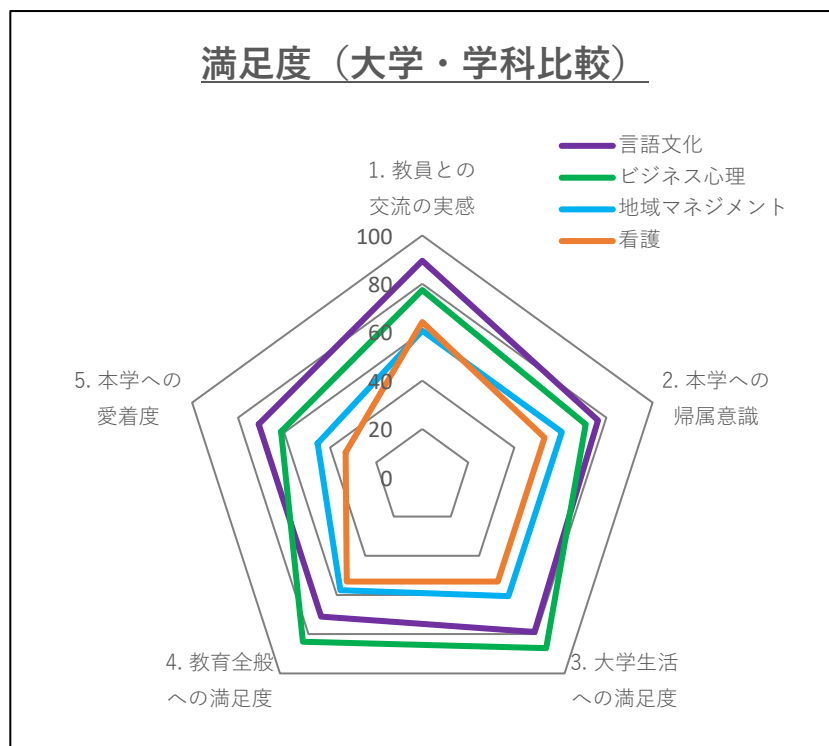
4. 満足度 (1-1) 大学・学科比較

項目	言語文化	ビジネス心理	地域M	看護
1	89.5	77.4	60.6	64.2
2	76.3	71.0	60.6	53.1
3	78.9	87.1	60.6	53.1
4	71.1	83.9	57.6	53.1
5	71.1	61.3	45.5	33.3

※背景色が青のものは大学で最も高いもの。

項目	健康栄養 (2年コース)	健康栄養 (3年コース)	こども育成 (2年コース)	こども育成 (3年コース)
1	70.6	68.2	92.3	80.0
2	70.6	61.4	69.2	80.0
3	64.7	77.3	76.9	84.0
4	76.5	70.5	69.2	86.0
5	47.1	40.9	61.5	72.0

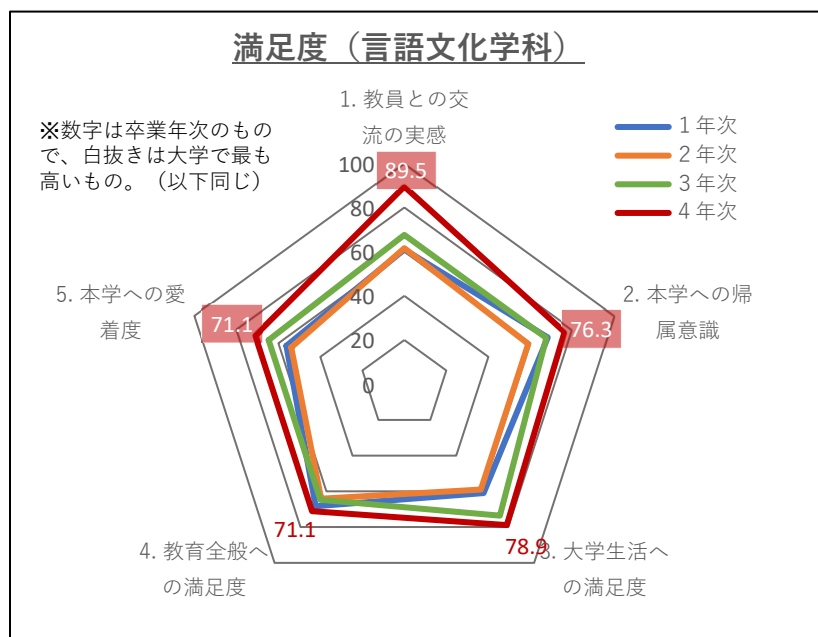
※背景色が青のものは短大で最も高いもの。



4. 満足度 (1-2) 大学・言語文化学科／ビジネス心理学科

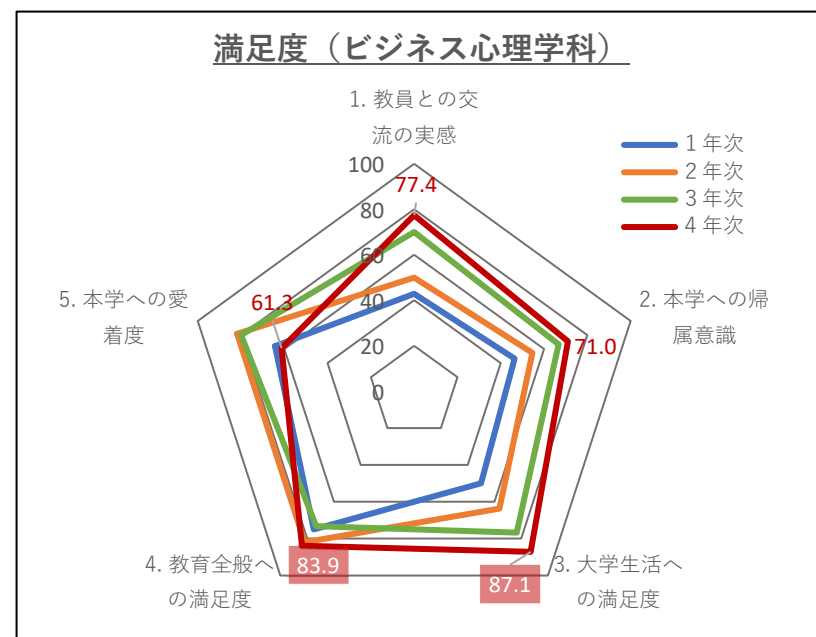
- 4年次の満足度では、3つの項目が大学で最も高く、他の2項目でも2位であることから、引き続き「学生の満足度が高い学科」と言える。
- すべての項目が4年次に向上しており、特に1. 教員との交流の実感は突出している。

項目	2020	2021	2022	2023
	1年次	2年次	3年次	4年次
1	61.0	61.6	67.6	89.5
2	68.3	59.0	67.6	76.3
3	61.0	59.0	73.6	78.9
4	68.3	64.1	64.7	71.1
5	56.2	53.9	64.7	71.1



- 4年次の満足度では、2つの項目が大学で最も高く、他の3項目でも2位であることから、「学生の満足度が高い学科」と言える。
- ただし、5. 本学への愛着度は61.3%に止まっており、3年次の80.0%から大幅に低下している。

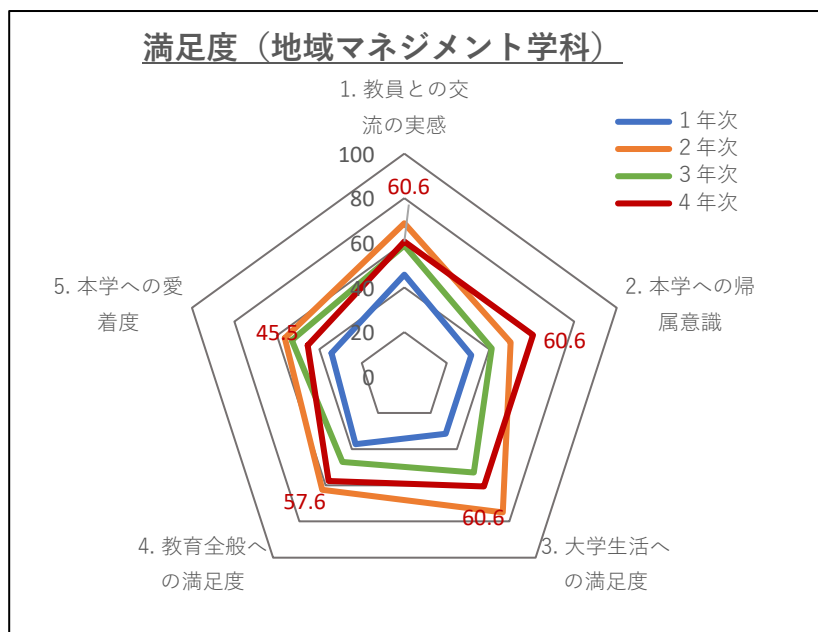
項目	2020	2021	2022	2023
	1年次	2年次	3年次	4年次
1	42.9	50.0	70.0	77.4
2	46.4	54.6	66.7	71.0
3	50.0	63.7	76.7	87.1
4	75.0	81.9	73.3	83.9
5	64.3	81.8	80.0	61.3



4. 満足度 (1-3) 大学・地域マネジメント学科／看護学科

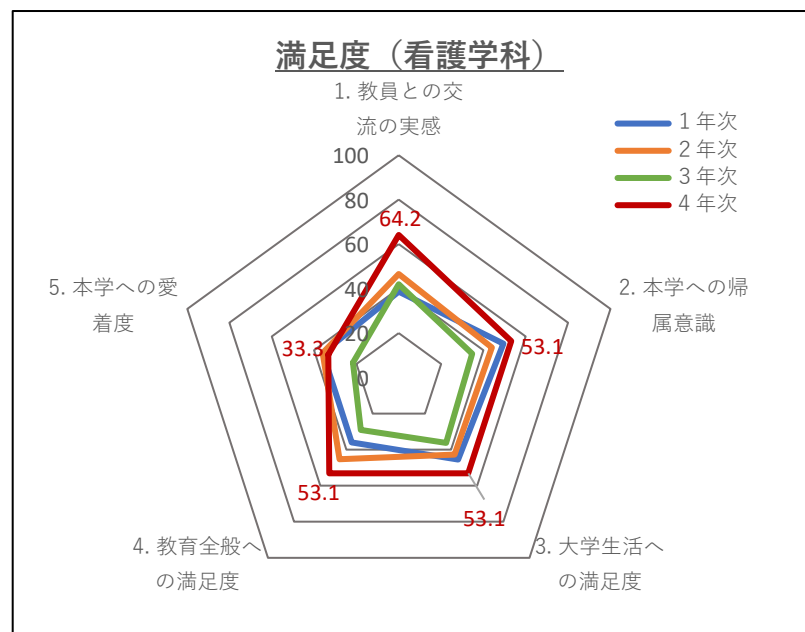
- 5. 本学への愛着度は45.5%、それ以外の項目は概ね6割程度の満足度となっており、1年次と比較すると、全ての項目で大幅に向上している。
- 3. 大学生活への満足度は、2年次の60.6%と比較すると低下しているが、3年次に比べると向上している。

項目	2020	2021	2022	2023
	1年次	2年次	3年次	4年次
1	45.8	68.8	58.8	60.6
2	31.5	50.0	41.1	60.6
3	31.5	75.0	52.9	60.6
4	37.2	62.5	47.1	57.6
5	34.3	56.3	53.0	45.5



- 全体として3年次での満足度が極めて低いが、5. 本学への愛着度以外は、4年次で向上しており、特に1.教員との交流の実感大幅に向上している。
- 1.教員との交流の実感以外の4項目は、大学で最も低い。

項目	2020	2021	2022	2023
	1年次	2年次	3年次	4年次
1	38.7	46.6	42.0	64.2
2	49.4	44.0	34.7	53.1
3	45.4	42.7	36.2	53.1
4	36.0	45.3	29.0	53.1
5	36.0	36.0	21.7	33.3



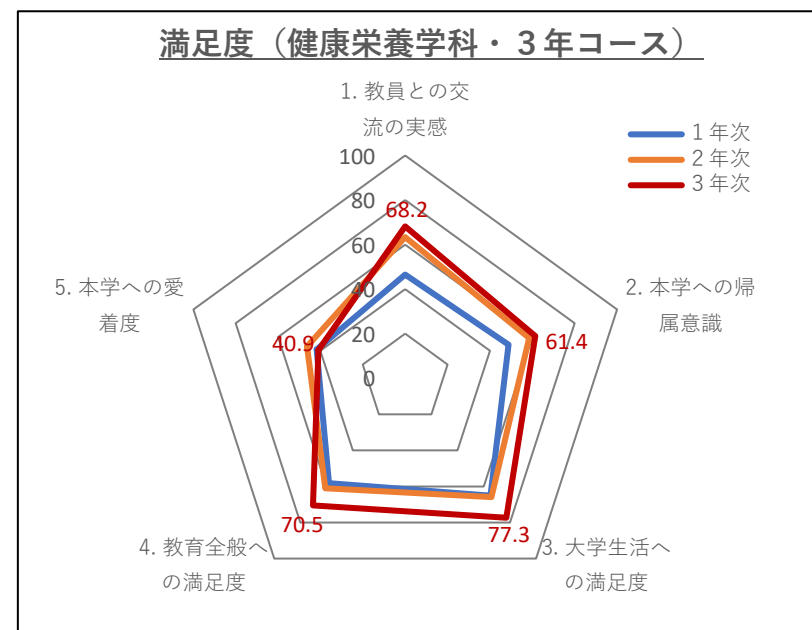
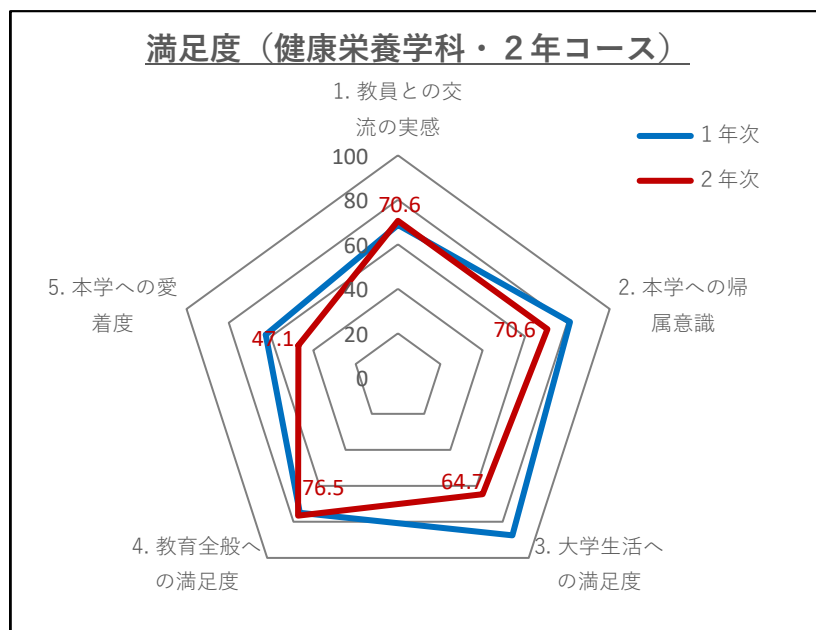
4. 満足度 (2-1) 短大・健康栄養学科 (2年コース/3年コース)

- 2. 本学への帰属意識と4. 教育全般への満足度は、いずれも短大で2番目に高い。
- 1. 教員との交流の実感と4. 教育全般への満足度以外は、1年次より2年次が低下しており、特に3. 大学生活への満足度は大幅に低下している。

項目	2022	2023
	1年次	2年次
1	68.8	70.6
2	81.3	70.6
3	87.5	64.7
4	75.0	76.5
5	62.5	47.1

- 5. 本学への愛着度以外は3年次が最も高く、特に3. 大学生活への満足度と4. 教育全般への満足度は、3年次で向上している。
- 5. 本学への愛着度は、3年次に低下して40.9%となっており、短大で最も低い。

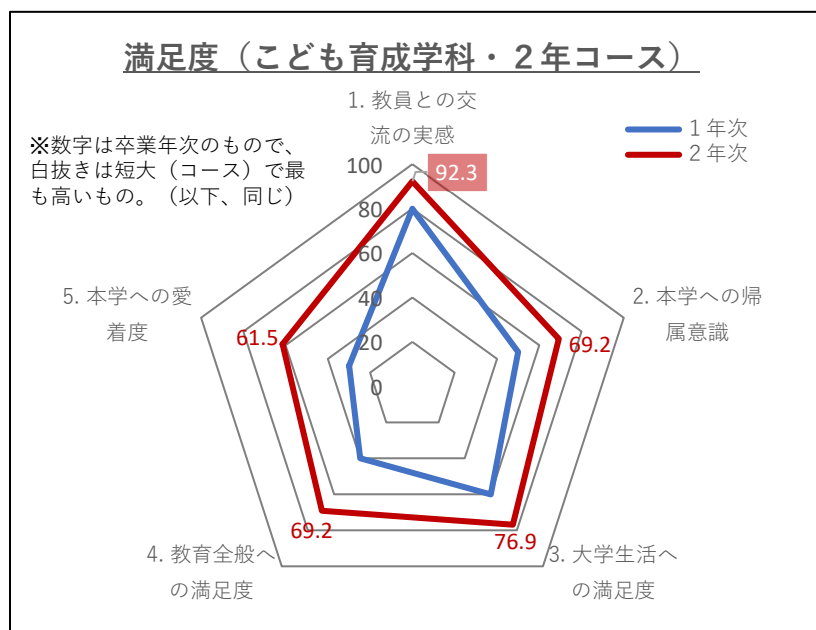
項目	2021	2022	2023
	1年次	2年次	3年次
1	46.6	63.4	68.2
2	48.8	58.5	61.4
3	65.1	65.9	77.3
4	58.2	61.0	70.5
5	41.8	46.3	40.9



4. 満足度 (2-2) 短大・こども育成学科 (2年コース/3年コース)

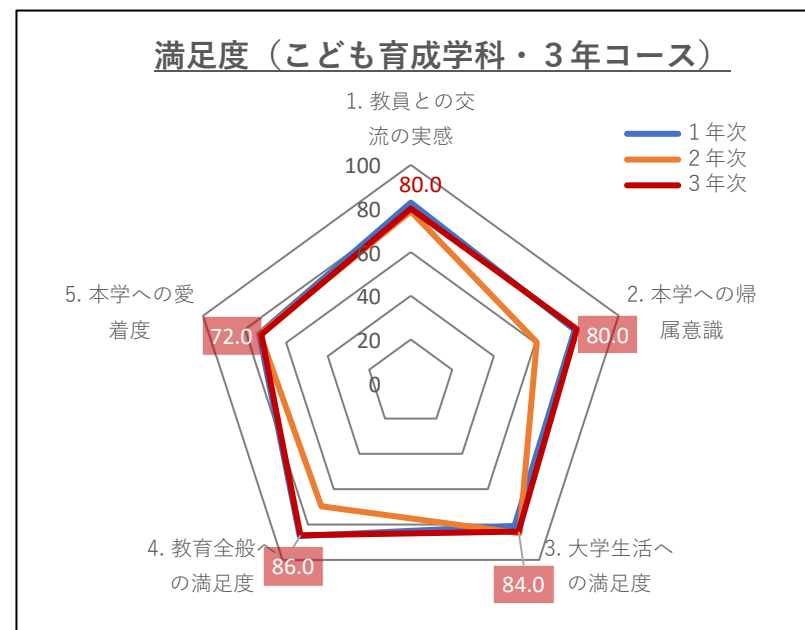
- ▶ 全ての項目で1年次より2年次で満足度が大幅に向上しており、特に4. 教育全般への満足度と5. 本学への愛着度は大幅に増加している。
- ▶ 1. 教員との交流の実感は、短大で1番高い。

項目	2022	2023
	1年次	2年次
1	80.0	92.3
2	50.0	69.2
3	60.0	76.9
4	40.0	69.2
5	30.0	61.5



- ▶ 5項目中の4項目が短大で1番高く、1. 教員との交流の実感も2番目であることから、「満足度の高い学科」と言える。
- ▶ いずれの項目も1年次と3年次の違いが少なく、いくつかの項目では2年次に低下した項目も3年次には再度向上している。

項目	2021	2022	2023
	1年次	2年次	3年次
1	82.7	78.8	80.0
2	78.9	60.6	80.0
3	80.8	84.8	84.0
4	86.5	69.7	86.0
5	73.1	72.7	72.0



5. レポートの活用 ～ まとめに代えて

➤ 成長実感と満足度の回答を分析した結果から、次の例のような点をアピールすることが考えられる。

【言語文化学科】

- 大学生としての基礎的なスキルや問題発見・解決の力はもとより、多文化や異文化、国際的な問題を理解する力が確実に身につく、全般的に満足度が高い。

【ビジネス心理学科】

- 大学生としての基礎的なスキルや問題発見・解決の力、人間関係を構築する力がしっかりと身につく、教育や学生生活での満足度も高い。

【地域マネジメント学科】

- 長期のフィールドワークなどを通して、地域社会が直面する問題に対する理解や課題を発見し解決する力が身についたことを実感できる。

【看護学科】

- 専門知識だけでなく、大学生としての基礎的なスキルや問題発見・解決等の力や、リーダーシップ、人間関係を構築する力が高いレベルで、しっかりと身につく。

【健康栄養学科（2年コース）】

- 2年間で短期大学生としての基礎的なスキルや問題発見・解決等の力、さらにはリーダーシップなどが身についたことを実感できる。

【こども育成学科（3年コース）】

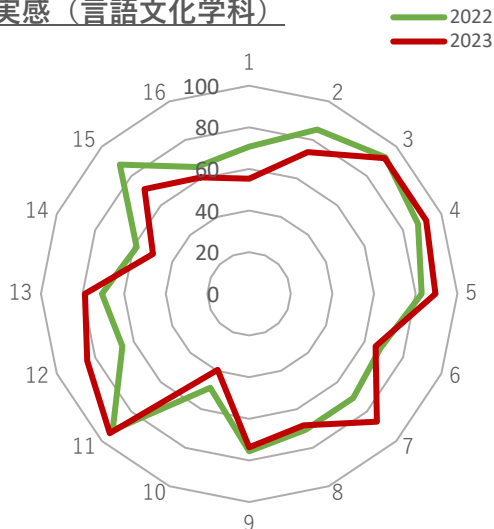
- 問題発見・解決等や人間関係を構築する力を高いレベルでしっかりと身につけることができ、学びや学生生活での満足度が高い。

➤ 各学科では、このレポートで提供するデータと分析結果を活用し、2022年度のデータとも比較（P21～P24）しながら、アピールポイントやカリキュラムのブラッシュアップに取り組んでいただきたい。

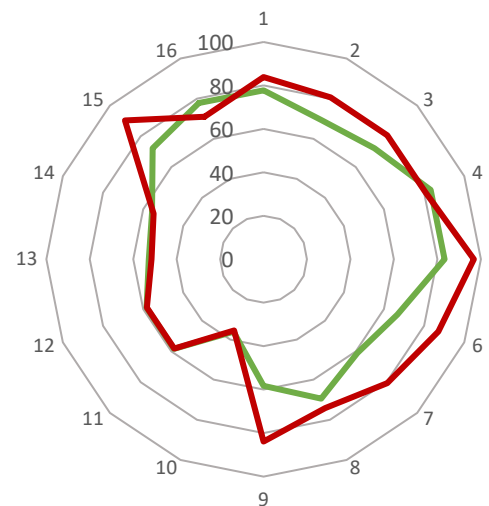
【参考資料】2022年度卒業生との比較①（大学・成長実感）

1. 授業の重要なポイントをノートにまとめる力
2. 図書館等で文献を調べる力
3. 文献や資料を読んで要点を理解する力
4. 自分の意見と事実を分けて書く力
5. ものごとを客観的・多面的にとらえる力
6. ものごとに対して粘り強く取り組む力
7. ものごとの問題点を発見する力
8. 発見した課題を解決する力
9. 自分の意見を筋道を立てて主張する力
10. 英語の能力
11. 多文化、異文化の人々に関する知識
12. 地域社会が直面する問題に対する理解
13. 国家間、国際的な問題に対する理解
14. リーダーシップ
15. 人間関係を構築する力
16. 大学の建学の精神や教育理念、歴史や伝統

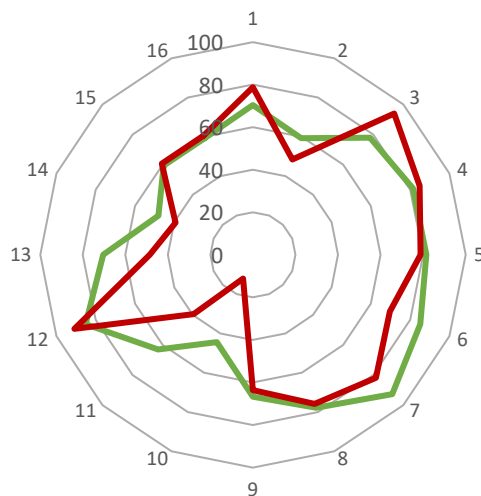
成長実感（言語文化学科）



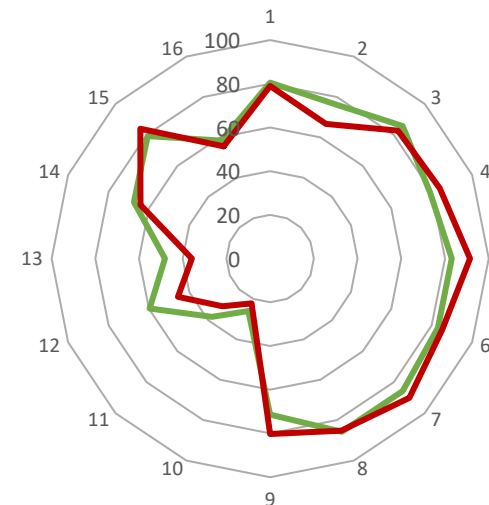
成長実感（ビジネス心理学科）



成長実感（地域マネジメント学科）

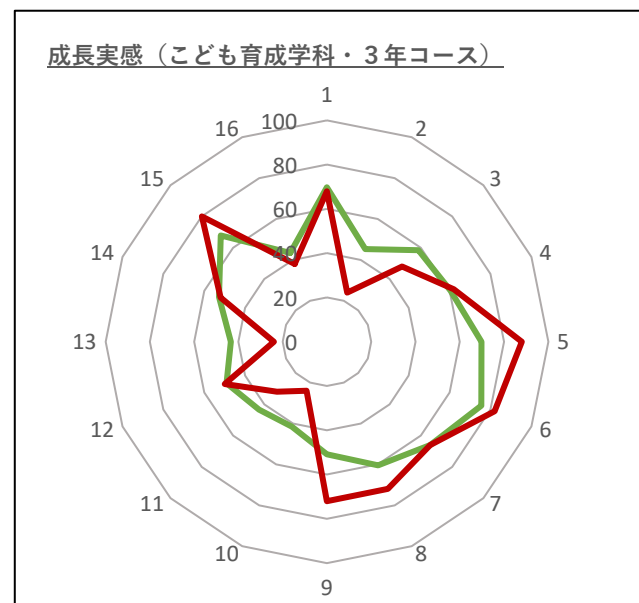
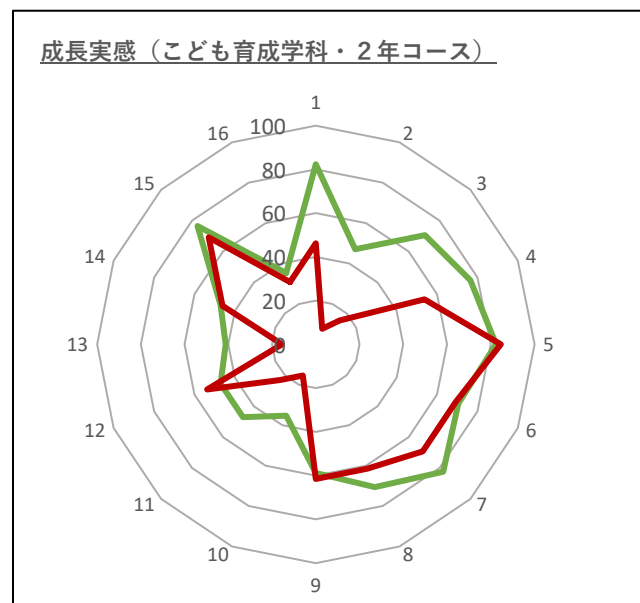
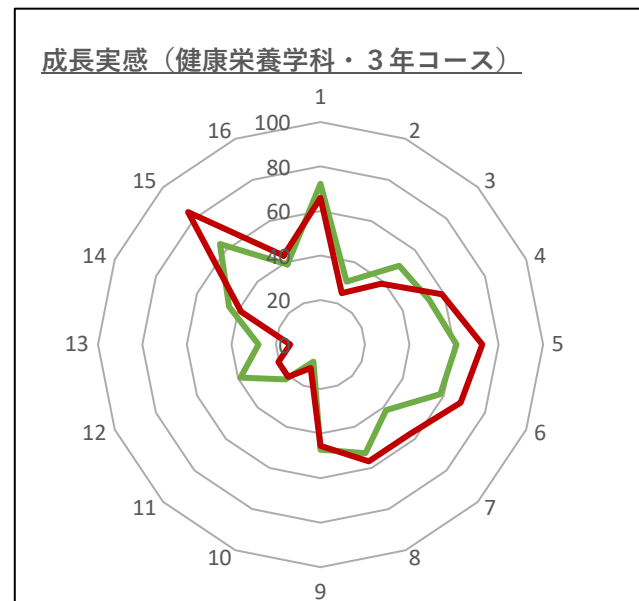
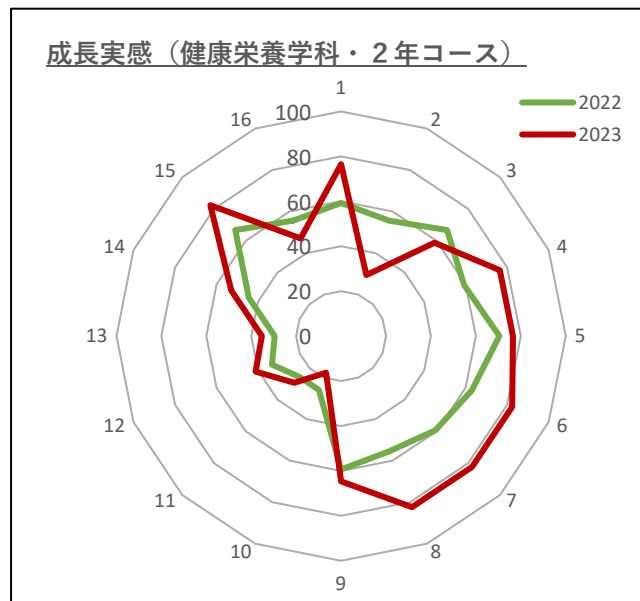


成長実感（看護学科）



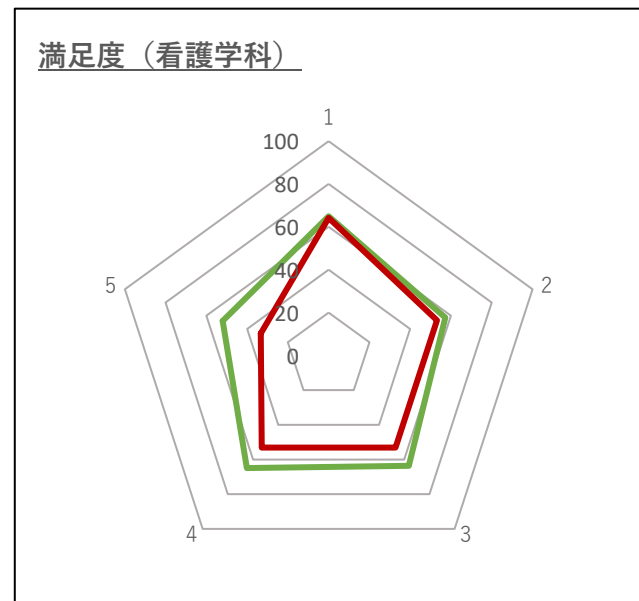
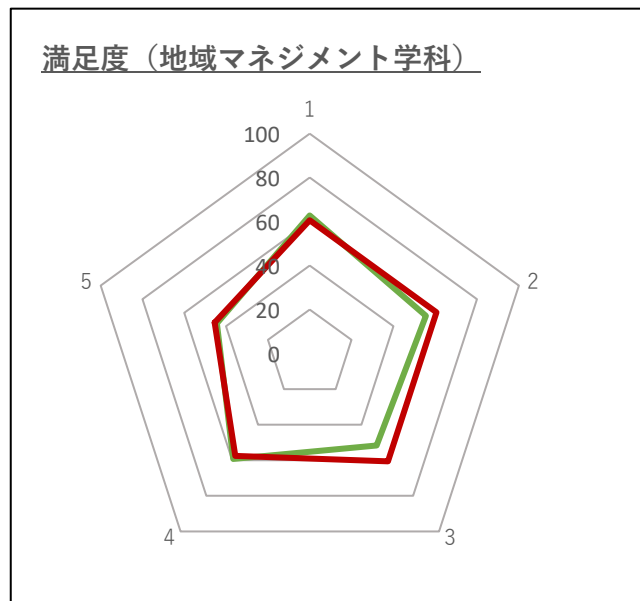
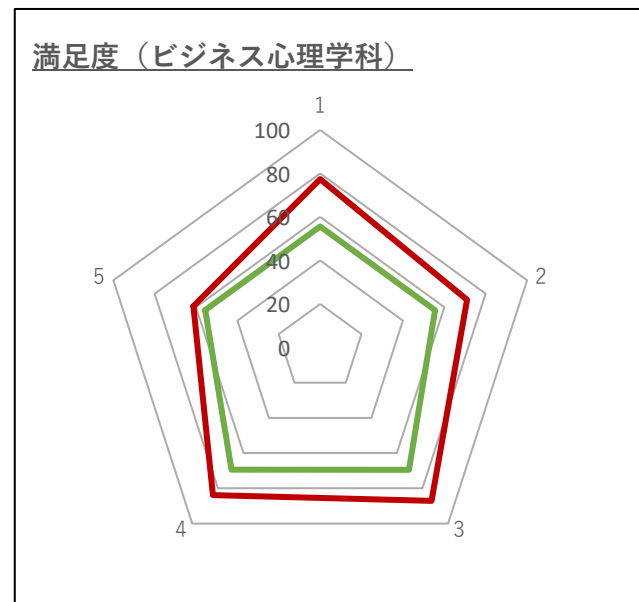
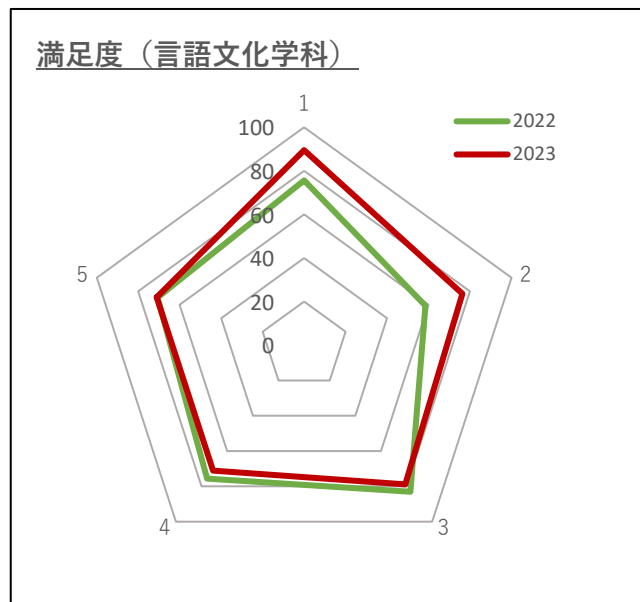
【参考資料】2022年度卒業生との比較②（短大・成長実感）

1. 授業の重要なポイントをノートにまとめる力
2. 図書館等で文献を調べる力
3. 文献や資料を読んで要点を理解する力
4. 自分の意見と事実を分けて書く力
5. ものごとを客観的・多面的にとらえる力
6. ものごとに対して粘り強く取り組む力
7. ものごとの問題点を発見する力
8. 発見した課題を解決する力
9. 自分の意見を筋道を立てて主張する力
10. 英語の能力
11. 多文化、異文化の人々に関する知識
12. 地域社会が直面する問題に対する理解
13. 国家間、国際的な問題に対する理解
14. リーダーシップ
15. 人間関係を構築する力
16. 大学の建学の精神や教育理念、歴史や伝統



【参考資料】 2022年度卒業生との比較③（大学・満足度）

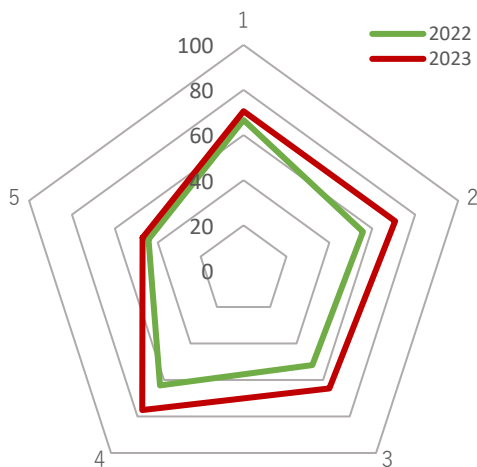
1. 教員との交流の実感
2. 本学への帰属意識
3. 大学生活への満足度
4. 教育全般への満足度
5. 本学への愛着度



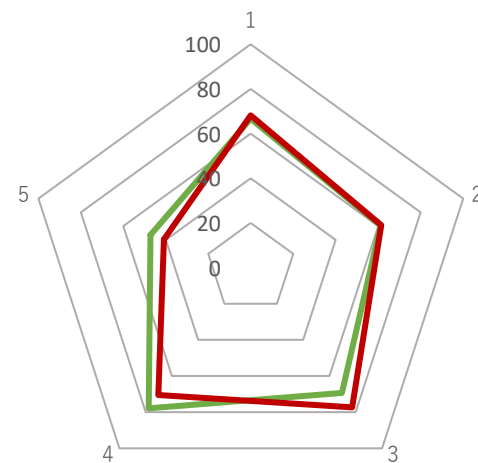
【参考資料】 2022年度卒業生との比較④（短大・満足度）

1. 教員との交流の実感
2. 本学への帰属意識
3. 大学生活への満足度
4. 教育全般への満足度
5. 本学への愛着度

満足度（健康栄養学科・2年コース）



満足度（健康栄養学科・3年コース）



満足度（こども育成学科・2年コース）



満足度（こども育成学科・3年コース）

